



東京2025世界陸上 サステナビリティレポート

大会の持続可能性が築く未来へのレガシー

2026年1月

「東京 2025 世界陸上競技選手権大会開催基本計画」(2023年11月)において、「今後の国際スポーツ大会のモデルを示す」というミッションを掲げ、目指すべきビジョンとして、東京モデルの確立に取り組んできました。

東京モデル

- ◆ スポーツが持つ様々な価値を次の世代へ繋げていく
- ◆ 持続可能な大会を実現し、国際スポーツの新しい世界標準モデルを確立する

2025年4月には、持続可能性に配慮した大会準備・運営を行うため、取組の方向性をまとめた、「東京2025世界陸上サステナビリティプラン」を策定しました。

本サステナビリティプランに基づき、本大会及び開催前から大会関係者とともに、持続可能な大会の実現に向けた様々な取組を実施してきました。

本レポートでは、こうして得られたレガシーを未来に紡ぐため、大会の環境的側面及び社会的側面の取組やPR・気運醸成などの「実践と成果」について報告します。

大 会 名 称：東京2025世界陸上競技選手権大会

主 催：ワールドアスレティックス(WA)

競 技 会 場：国立競技場(マラソン、競歩は都内で実施)

開 催 期 間：2025年9月13日(土)から21日(日)まで9日間

ウォームアップ会場：代々木公園陸上競技場、東京大学陸上競技場

練 習 会 場：東京大学陸上競技場、大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場

種 目 数：49種目

参 加 国 ・ 地 域：193か国・地域 + 難民選手団

参 加 選 手 数：1,992名(男性1,034名、女性958名)

I. サステナビリティに関する取組総括…P5-7

II. 取組のピックアップ紹介…P8-40

SAF、Airソーラー、バイオ燃料、低環境負荷車両の活用、カーボンクレジット・グリーン電力証書の活用、ボトルtoボトル、リユース容器の活用、食品ロス対策、装飾のアップサイクル、プロギング、多様な人々の大会への参画、セーフガーディング、アスリートとファンが持続可能性を語るタベ
【コラム】大会における暑さ対策、スポンサーのサステナビリティ取組紹介

III. WAの大会に関するサステナビリティ評価…P41-42

・WAのABW(Athletics for a Better World Standard)基準による評価

ANNEX…P43-P55

- ・統計データ(カーボンフットプリント、廃棄物のリサイクル率、エネルギー・水の消費量など)
- ・取組一覧

I. サステナビリティに関する取組総括

- サステナビリティに関する取組全体像
- 今大会における主な成果

サステナビリティに関する取組全体像



気候変動・ エネルギー、 暑さ対策

廃食用油から製造されたSAF
の活用

Airソーラーの活用

バイオ燃料の活用

低環境負荷車両の活用
効率的な輸送

カーボンクレジット・グリーン
電力証書の活用

大会における暑さ対策

資源循環・ 持続可能な 調達・ 廃棄物削減

ボトルtoボトルの実施

リユース容器の活用

食品ロス対策

装飾のアップサイクル

環境改善

プロギング

大気環境モニタリング

施設改善と大会後の活用

環境的側面の取組

社会的側面の取組

開かれた
大会運営等

こどもたちの大会運営体験

ボランティアの大会運営参加

選手の平等な施設利用

多様性、
陸上への関心、
ウェルビーイ
ング等

多様な人材採用と人権尊重

会場のアクセシビリティ向上

陸上教室の開催、冊子の配布

選手、スタッフ等にセーフガーディング情報を提供

PR・
気運醸成

環境配慮の気運醸成

アスリートによる発信

今大会における主な成果



SAF

家庭の油回収量
約11,300ℓ

Air ソーラー

広報展開
TVCM視聴
約1千万人

バイオ 燃料

CO₂削減効果
約160t-co₂

ボトル to ボトル

リサイクルした
ペットボトル
約45万本

食品ロス 対策

喫食率
約90%

アップ サイクル

素材の重量
約51kg

カーボン クレジット

ボランタリー
クレジットの活用
国際スポーツ
イベント初(国内)

グリーン 水素

世界陸上マラソン
競技での活用
大会史上初

子どもの 大会参画

大会における
子どもの参画
約6.6万人

セーフ ガーディング

大会独自の
ステートメント
公表

II. 取組のピックアップ紹介

① 廃食用油から製造されたSAFの活用…P9

⑨ 装飾のアップサイクル…P17

② Airソーラーの活用・広報展開…P10

⑩ プロギング…P18

③ バイオ燃料の活用…P11

⑪ 多様な人々の大会への参画…P19

④ 低環境負荷車両の活用・効率的な輸送…P12

⑫ セーフガーディング…P20

⑤ カーボンクレジット・
グリーン電力証書の活用…P13

⑬ アスリートとファンが持続可能性を語るタベ…P21

⑥ ボトルtoボトル水平リサイクル…P14

【コラム】
大会における暑さ対策…P22-P27

⑦ リユース容器の活用…P15

【コラム】
スポンサーのサステナビリティ取組紹介…P28-P40

⑧ 食品ロス対策…P16

取組のピックアップ紹介①

廃食用油から製造された

SAF

の活用

家庭の油回収量
約11,300ℓ

※羽田—ニューヨーク間片道便相当

SAF(持続可能な航空燃料)

廃食用油等の再生可能な資源を原料として製造される航空燃料

東京都では、「2050東京戦略」において、航空燃料の脱炭素の切り札となるSAFの普及促進を掲げている

家庭の油回収キャンペーン

- 大会には世界中から選手や関係者が航空機で来日することから、航空燃料による環境負荷が注目される機会を捉え、「家庭の油で飛行機を飛ばそう」というキャッチコピーで、回収キャンペーンを展開。財団と東京都が連携して実施し、アスリートアンバサダーであるやり投の北口榛花選手の協力を得ながら、PR媒体や大会公式Webサイトを通じて広く参加を呼びかけた。
- その結果、キャンペーン期間中に回収された廃食用油は約11,300リットルに達し、これは羽田—ニューヨーク間の片道便に相当。

動画制作、テレビCM・Web広告などの広報展開

- 財団は、都民や観客に幅広く協力を呼びかけるため、北口榛花選手のメッセージや公式マスコット「りくワン」が回収方法を案内する動画を制作。テレビCMやWeb広告等で、幅広く情報発信を行った。
- 東京都は、都庁舎にも回収所を設置とともに、都庁職員食堂でも回収を実施。また、油を無駄にせずに飛行機の燃料にすることは、サステナブルな社会を実現していた江戸の文化に通じるものであることから、油を容器に移すのに便利な「江戸前じょうご」を製作・配布。

大会時には家庭の油をブースで回収

- 大会時には、国立競技場周辺に出展した3つのブース(①レボインターナショナル、②東京都環境局、③財団)に、回収ボックスを設置。
- 東京体育館に出店したフードトラック事業者とレボインターナショナルが連携して、廃食用油の回収を実施。



江戸前じょうご

©東京都



SDGsイベントで家庭の油回収

取組のピックアップ紹介②

Airソーラー

の活用・広報展開

普及拡大に向けた広報展開
におけるリーチ数

テレビCM視聴者数

約1千万人



Airソーラー普及拡大に向けた広報展開

- 財団と東京都は、大会におけるAirソーラーの普及拡大に向けた広報展開を連携して行うため協定を締結。Airソーラー開発事業者の協力を得て、広報・PR担当理事の戸邊理事や公式マスコット「りくワン」が登場するPR動画を制作。テレビCMやWeb広告を行うとともに、大会時には国立競技場の大型ビジョンやデジタルサイネージでも放映した。

大会でのAirソーラーの活用

- 東京都の実装検証事業として国立競技場周辺にAirソーラーを搭載した庭園灯を35本設置。庭園灯は、JR千駄ヶ谷駅から東京体育館の外構部を通って国立競技場に続くルートに配置し、家路に向かう観客の足元を優しく照らした。
- 大会時には、国立競技場周辺に出展した財団ブースに、Airソーラーの実物を展示するとともに発電した電気で夜間は照明を点灯。来場者からは「ずいぶん薄いんですね」などの感想が寄せられ、Airソーラーの有用性を実感していただけた。



Airソーラー(次世代型太陽電池)とは

- ペロブスカイト結晶構造を用いた次世代型太陽電池であり、日本発の技術であることに加え、主原料のヨウ素は世界産出量の30%が日本国内で産出
- 「薄く・軽く・曲がる」という特性を持ち、従来の太陽電池で設置困難であった低耐荷重の屋根や壁面等への設置可能性があり、さらなる再生可能エネルギーの導入拡大に期待
- 東京都において、一層の普及拡大を図るため、ネーミング総選挙を実施し、「Airソーラー」を選出

取組のピックアップ紹介③

バイオ燃料 の活用

CO₂削減効果
約 **160** t-CO₂
※通常燃料使用時との比較



世界陸上初！バイオ燃料の活用

- 国内スポンサーであるレボインターナショナルと連携し、国立競技場に設置する放送事業者用の仮設発電機に国内最大級の規模となる100%バイオ燃料(C-FUEL)を使用したほか、練習会場等の仮設発電機や大会関係者の輸送車両の一部にも5%バイオ燃料(CF-5)を使用した。
- バイオ燃料の活用は世界陸上大会では初の取組であり、大会を通じて、100%バイオ燃料約6万リットル、5%バイオ燃料約2万リットルを使用することにより、通常の燃料を使用した場合と比較して、約160トンのCO₂削減(80%減)を達成した。

良好な大気の保全

- 100%バイオ燃料を使用することで、ぜんそく等の健康被害の原因とされる排煙中の黒煙を1/3～1/6軽減した。さらに、酸性雨などの原因となるSOx(硫黄酸化物)もほとんど排出しないため、大気環境の汚染を軽減することができた。

広報・情報発信

- バイオ燃料の仕組みや意義を紹介するため、広報・PR担当理事の野口理事や公式マスコット「りくワン」が登場する動画を制作。Webによる広告や国立競技場の大型ビジョンやデジタルサイネージ、財団ブースや仮囲いに設置のモニター等でも放映した。また、5%バイオ燃料を使用する輸送車両にラッピングを行うなど、幅広い情報発信を行った。



取組のピックアップ紹介④

低環境負荷車両活用 効率的な輸送

世界陸上マラソン競技 グリーン水素の活用 大会史上初



©東京ガス(株)

燃料電池自動車・電気自動車等の活用

- WAスポンサーであるHondaから、燃料電池自動車(CR-V e:FCEV)等の様々な低環境負荷車両が提供され、大会関係者の輸送等に使用された。
- マラソン競技の運営で使用する審判車両や計時車両等には、電気自動車、燃料電池自動車、電動バイクを活用した。



グリーン水素の活用

- 燃料電池自動車の走行には、製造時にもCO₂を排出しない再生可能エネルギーを使ってつくられるグリーン水素を活用した。グリーン水素については、国内スポンサーである東京ガスから提供を受けた。
- 世界陸上のマラソン競技において、グリーン水素活用は大会初の取組である。



効率的な輸送

- 選手の移動は、シャトルバスによる一括輸送をすることで効率化を図るとともに、一部の大型バスには、バイオ燃料や水素を燃料とする燃料電池バスを活用した。
- メディア関係者に対しては、交通系ICカードを配付し、公共交通機関の利用を基本とする運用としたことで、大型バスの台数削減を実現した。



取組のピックアップ紹介⑤

大会運営に伴うCO₂排出については、Scope1では国内スポンサーである東京ガスのカーボンクレジットを活用し、Scope2ではグリーン電力を使用することで、環境負荷の低減を図った。

カーボンクレジット グリーン電力証書 の活用

ボランタリー クレジットの活用

国際スポーツ イベント初(国内)



Scope1

事業者自らによる温室効果ガスの直接排出
(燃料の燃焼など)

Scope2

他社から供給された電気、熱・蒸気使用に伴う
間接排出

Scope3

Scope1、Scope2以外の間接排出
(事業活動に関連する他社の排出: 購入した製品・サービス、輸送など)

カーボンクレジットの活用

- 地球規模での温室効果ガスの削減に加え、SDGsに寄与する国際的なプロジェクトを支援することにより創出された信頼性の高いボランタリークレジットを国内スポンサーの東京ガスが提供。
- 日本開催の国際スポーツ大会において、ボランタリークレジットを導入するのは初めての取組。

グリーン電力証書の活用

- 会場使用電力については、その大部分を再生可能エネルギー由來の電力でまかなう形で対応。再生可能エネルギーで補いきれない分については、東京都と連携してグリーン電力証書を活用。

ボランタリークレジットとは

- ・森林の保護や植林、省エネルギー機器導入などで生まれたCO₂削減効果を、民間の認証機関がクレジットとして発行し、取引できるよう価値化したもの



国内スポンサーである東京ガスよりカーボン
クレジットを充当

東京都より「グリーン電力証書」を充当

取組のピックアップ紹介⑥

ペットボトルの
ボトルtoボトル
水平リサイクル
リサイクルした
ペットボトル
約 **45** 万本

環境負荷の少ない大会を目指して - #ボトルtoボトル

東京2025世界陸上 公式マスコット りくワン

PR動画



東京2025世界陸上では ペットボトルを回収して

世界陸上初！ボトルtoボトル

- 大会では、WAスポンサーの大塚製薬と連携し、国立競技場や練習会場等で使用されたペットボトルを回収して新たなペットボトルに再生するボトルtoボトルを世界陸上で初めて実施した。
- ボトルtoボトルとは、使用済みペットボトルを新たなペットボトルに再生し、使用する循環型のリサイクルシステム。ペットボトルを資源として繰り返し循環することが可能となり、化石由来原料の使用量やCO₂排出量の削減に繋がり、地球環境の保全に貢献した。

分別徹底のための回収ボックス・表示

- 観客や選手・スタッフなどの関係者に、ペットボトルをきちんと分別排出してもらえるよう、大塚製薬は、専用の分別回収ボックスを提供。わかりやすい表示もつけて、観客や選手・関係者に対して、分別徹底の周知を行った。

PR動画の制作

- ボトルtoボトルの仕組みや意義を紹介するため、広報・PR担当理事の戸邊理事や公式マスコット「りくワン」が登場するPR動画を制作。大会時には国立競技場の大型ビジョンやデジタルサイネージ等でも放映し、幅広く情報発信を行った。



取組のピックアップ紹介⑦

リユース容器の活用

使い捨て容器削減数

約1万個

※リユースカップ及びポカリスエットリターナブル瓶の利用数



クーリングスポットにおける
リユースカップの利用
©(公財)東京都環境公社

飲料容器に関する廃棄物を削減するため、水分補給・飲料提供の各場面において、リユース容器を活用するなど、様々な工夫や取組を行った。

【マイボトルの推奨】

- 大会公式Webサイト「観戦のご案内」において、来場者に対して、ごみ削減のためにマイボトルの持参を呼びかけるとともに、会場周辺やマラソンコース沿道のクーリングスポットのウォーターサーバーで、マイボトルが利用できることについて周知を行った。

【リユースカップの活用】

- 東京都・東京都環境公社が設置・運営したマラソン競技沿道の観客向け休憩所は、約11,500人の観客が利用。全13か所のうち12か所ではウォーターサーバーによる飲料提供において、リユースカップを活用し、約9,000個のリユースカップが利用された。



リユースカップ
©(公財)東京都環境公社

【ポカリスエットリターナブル瓶】

- WAスポンサーである大塚製薬から提供を受け、国立競技場内のラウンジにおいて、ポカリスエットリターナブル瓶を提供した。瓶ならではの飲み心地の良さに加え、スタイリッシュでクールなデザインが高く評価され、用意した1,300本超がすべて利用されるほどの人気を集めた。本大会で使用された容器も回収、瓶の洗浄、再充填を行い新たな製品に生まれ変わる。



ポカリスエット
リターナブル瓶
©大塚製薬(株)

取組のピックアップ紹介⑧

食品ロス対策

喫食率

約90%



フードトラック

発生抑制の取組

- 国立競技場内のラウンジでの提供食数では、過去大会の実績のほか本大会の来場者数や喫食状況等を踏まえ、食数精査を徹底した。各会場の大会スタッフ等を対象とした弁当の提供では、冷凍食材を活用した調理等により、需要数の変動等に応じた柔軟な提供体制を整備するとともに発注数の精査を徹底した結果、会場飲食全体の喫食率は約90%と高い数値となった。
- メディア関係者・放送事業者等を対象に出店したフードトラック事業者と連携し、冷凍食材や端材を活用した調理のほか、注文後に調理を行うことで廃棄抑制に取り組むとともに、食べ残し防止策として、喫食者のニーズに応じ料理の給仕量を調整するポーションコントロールを行った。
- テクニカルサプライヤーやボランティアスタッフを対象に、飲食相当分のプリペイドカードを配付し、活動状況等に合わせた飲食機会の確保ができるよう仕組みを講じ、食品ロス削減に取り組んだ。

有効活用・再生利用の取組

- 国立競技場内のラウンジでの飲食提供において発生した廃棄食材のうち約128kgを堆肥化、その他一部の廃棄食材はバイオガス化し、有効活用した。
- 選手やメディア関係者等に提供したバナナ約21,400本のうち、余剰となった約3,900本について、関係団体との連携・協力により都内フードバンク、こども食堂等での活用につなげる等、食品ロス削減に取り組んだ。こどもたちからは「甘くておいしい！」等の声が寄せられた。
- メディア関係者や国際審判員等に提供したコーヒーについて、抽出過程で発生したコーヒー粕約15kgを堆肥化し、有効活用した。



取組のピックアップ紹介⑨

装飾の アップ サイクル

アップサイクルに用いた
素材の重量

約51 kg

アップサイクルとは

本来廃棄されるはずの製品・
素材をそのまま生かして、
新たな付加価値を与えて
再生利用する取組

- WAマスターライセンシーと連携して、大会で用いた装飾等を活用したアップサイクルを実施。
- 街頭フラッグを用いたポーチ・バリケートジャケットを用いたトートバッグ・テーブルスカートを活用した巾着袋を作成し、大会公式オンラインショップにて受注販売。

大会時の装飾



街頭フラッグ



バリケートジャケット



テーブルスカート

アップサイクル商品



ポーチ



巾着袋



トートバッグ

取組のピックアップ紹介⑩

プロギング

ごみの収集量

約 11 kg



©森永製菓(株)

イベントの実施

- 大会初日の9月13日に、WAスポンサーである森永製菓と連携し、大会参加者の健康増進及び環境配慮に係る意識醸成を図るとともに、国立競技場周辺の環境浄化を目的として、国立競技場周辺でプロギングを実施した。
- 当時は44名の参加があり、プロギングのコースは初級者・中級者・上級者の3つに分かれて実施し、回収したごみは約11kgに達した。
- このイベントには、森永製菓契約選手の川内優輝氏や、WAアンバサダーのサリー・ピアソン氏、クリスチャン・ティラー氏らがゲストとして参加し、イベントを盛り上げた。

プロギングとは

プロギングとは、**ジョギングを行いながら、ごみ拾いを行う新しいスポーツのこと。**

言葉の由来は、スウェーデン語の「Plocka Upp(拾う)」と英語の「Jogging(ゆっくり走る)」を掛け合わせたもの。



©森永製菓(株)



©森永製菓(株)



©森永製菓(株)

多様な人々の大会への参画

大会における子どもの参画

約6.6万人



子どもの参画

- 大会を「子どもに夢を届ける大会」として、東京都・日本陸連と協力し観戦機会の提供(約4.9万人)・陸上競技体験(約1万人)など、WAのKids' Athleticsと連携した取組を実施し、WAから表彰を受けた。
- 子どもたちが大会の準備・運営に参加できるよう、ロゴ・メダルデザイン等への意見をもらうとともに、メダルセレモニー時にはバックステージナビゲーターとして、メダリストのエスコートをする取組を実施した。
- WAと連携し、大会メダリスト等と子どもたちとの交流を企画・実施。
- 都内全小学校に東京2025世界陸上オリジナルのリレーバトンを寄贈するとともに、スポーツドリルを配布(約34万部)。

幅広い人材の参画

- イブニングセッション直前に国立競技場においてエキシビションレースを実施し、マスターズ・パラアスリート・デファスリート・全国の中学生アスリートが参加した。
- ボランティアは2,858人が参加。年齢、国籍、障害の有無等を問わず、幅広い人材が参加。
- 東京都と連携し、会場内に音声を多言語で表示するユニバーサルコミュニケーション(UC)機器を導入し、外国人観客等との円滑なコミュニケーションの実現を図った。

LGBTQ+の理解促進

- LGBTQ+の理解促進のためのパネルを作成し、大会時の財団ブースにおいて展示を行うなど、周知に努めた。



LGBTQ+への支援

LGBTQ+とは
セクシャルマイノリティを表す総称の一つであり、『+』を付けることで、『LGBTQ+』に当たる多様な性を表す。

Lesbian レズビアン	性自認が女性で、女性に魅力を感じる人
Gay ゲイ	性自認が男性で、男性に魅力を感じる人
Bisexual バイセクシュアル	2つ以上の性別に魅力を感じる人
Transgender ランスジェンダー	出生時に割り当てられた性別と異なる性で生きる人
Questioning クエスチニング	自分の性や恋愛対象を探している・決めていない人

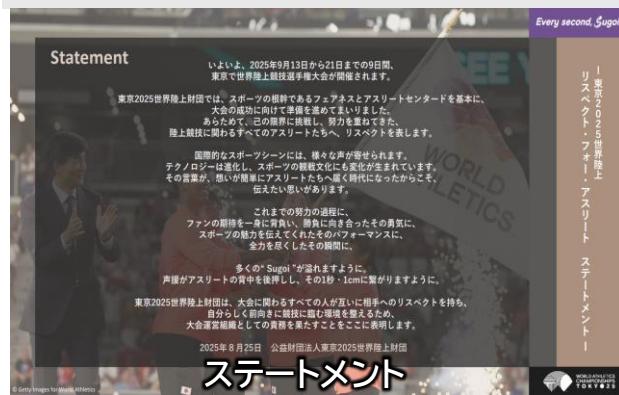
スポーツにおける LGBTQ+

スポーツは年齢・性別・国籍を問わず、誰もが楽しめる普遍的な文化である一方、LGBTQ+の人々にとっては、偏見や差別、孤立感などが障壁となり、スポーツの場に参加しづらい現状もあります。だからこそ、スポーツにおける LGBTQ+への支援は、包括的で多様性を尊重する社会の実現に向けて非常に重要な取組です。東京 2025 世界陸上では、人権に関する大会スタッフへの研修や、年齢・性別・障害の有無を問わずして採用したボランティア等の大会参画を通じて、開かれた大会運営を推進していきます。

LGBTQ+理解のためのパネル

セーフ ガーディング

大会前に 大会独自の ステートメント を公表



セーフガーディングポリシーの策定

- 財団は陸上競技に関わるすべての人にとって安全で前向きに大会に参加することのできる環境を整備する責任を果たすため、セーフガーディングポリシーを策定。
- WAが定義するセーフガーディングの対象範囲(虐待・ハラスメント・搾取)に加え、アスリートへの迷惑撮影※やSNS等での誹謗中傷も、財団が取り組むべき課題として明記。
※大会での撮影(一次被害)と、インターネットやソーシャルメディア上の写真・動画の活用方法(二次被害)の両者

普及・啓発

- 財団職員及びボランティアスタッフを対象とし、WAのe-learningコース受講などの研修を実施、セーフガーディングの取組を周知。
- セーフガーディングに関する各対応策について、各団体・組織と連携し、各国選手団へ周知・情報提供を実施。
- アスリートが安心して競技に集中できる環境づくりを目的に、アスリートへのリスペクトを基軸としたステートメントを作成。

World Athletics Championships
Tokyo 25
SAFEGUARDING POLICY

公益財団法人東京 2025 世界陸上財団セーフガーディングポリシー



取組のピックアップ紹介⑬

アスリートとファンが

持続可能性を語る夕べ

持続可能性について語り、
ファンと交流したアスリート

16人

アスリートと交流したファン

約1,000人



アスリートと観客との持続可能性に関するふれあい

- WAと連携し、財団ブースに本大会の参加選手やWAアンバサダーを招き、持続可能性に関する「想い」を語つてもらうとともに、選手と観客がカジュアルに交流できる催し「アスリートと語る夕べ」を開催した。
- イベントでは、選手が持続可能性に関するクイズを出題することにより、観客が気候変動や食品ロスなどの状況を楽しく学ぶことができるよう工夫するとともに、写真撮影やサイン会を実施することにより、観客と選手が直接ふれあう機会を創出した。
- 参加した選手からは、「東京のファンと交流する大変貴重な機会であった」、「たくさんのファンと触れ合うことができて楽しかった」などのコメントがあった。
- また、参加したファンからは、「大会やスポーツの持続可能性に関して、選手の真摯な姿勢を聞くことができて感動した」などのコメントがあった。

来場者(名前/国名/参加種目)

9/14	アイラ・デル ポンテ/イス/400mリレー ユーファブリス・ザンゴ/ブルキナファソ/三段跳
9/15	ファニユアル・キプコスゲイ・コエチ/ケニア/1500m セレスティンジェ・コスケイ・ビウォ/ケニア/3000m障害
9/16	【WAアンバサダー】 サリー・ピアソン/オーストラリア/100mハーフル(※) クリスチャン・ティラー/アメリカ/三段跳(※)
9/17	アーネストジョン・オビエナ/フィリピン/棒高跳 サム・マティス/アメリカ/円盤投
9/18	デイヴィッド・ルディシャ/ケニア/800m(※)
9/20	リディアン・カウリー/オーストラリア/競歩 【難民選手団チーム】 ファリダ・アバロゲ/5000m ペリナロクレ・ナカン/800m ムサ・スリマン/800m オマル・ハッサン・マラソン キルフラエマニュエル・ンタゲンガ/マラソン ジャマルアブドゥルマジ・イーサモハメド/5000m

※陸上競技を引退した選手



開催決定にあたっての対応

- 酷暑への懸念から、**大会開催期間を2019年ドーハ大会に次いで2番目に遅い時期である、9月中旬に設定**
- 競技スケジュールをモーニング・イブニングのセッションに分け、**日中時間帯での競技を回避**

大会運営にあたっての対応

- ✓ 東京2020大会の経験や近年の酷暑を踏まえ、東京都やスポンサーと連携し、あらゆる暑さ対策を実施

①観客向け：会場周辺から競技会場に至るまで**切れ目のない暑さ対策**を実施

②選手向け：国立競技場・練習会場等において暑さ対策を実施し、**アスリートが競技に集中できる環境を整備**

③関係者向け：大会を支える関係者に対しても**適切な暑さ対策**を実施

④スタートアップの活用：東京都・スタートアップと連携し、地球規模で課題となっている**暑さ対策の解決**に向けて

ソリューションを提供するスタートアップの技術を活用

⑤医療提供体制：国立競技場・練習会場・チームホテルに、会場医療責任者（医師）を配置し、**すべての大会関係者に必要な医療を提供**

観客向け

切れ目のない 暑さ対策を実施



国立競技場周辺 クーリングスポット

©東京都

【コラム】大会における暑さ対策①

国立競技場周辺

- 東京都は、クーリングスポット(観客向け休憩所)を6か所(外構部4か所・明治公園2か所)設置。暑さ対策ガイドマップ(うちわとしての利用も可能)や暑さ対策グッズ(塩分タブレット、保冷剤)の配布、東京2020大会で活用したかぶる傘の貸出、ウォーターサーバーによる飲料提供、ミストクルーによる涼の提供を行い、約66,000人の来場者が利用した。
- メダルプラザの熱中症対策として、WAスポンサーである大塚製薬と協力して飲料(ポカリスエット・クリスタルガイザー)を配布した。



暑さ対策グッズの配布

©東京都



ミストクルー

©東京都

国立競技場内

- こまめな水分補給を推奨するため、会場内へのペットボトルやマイボトルの持込を可能とした。
- 大型スクリーン・デジタルサイネージ・UC機器や、場内アナウンスにより水分補給等の注意喚起を行った。きめ細やかな情報提供を行うため、WBGT(暑さ指数)に応じた注意内容の切り替えも実施。
- 場内既設のミスト冷却装置や気流創出ファンの活用により体感温度を低減。
- 観客用医務室の設置や、ボランティアのファーストレスポンダー60名が観客席を巡回し、急病人への対応を行った。

マラソンコース沿道

- 東京都・東京都環境公社が、マラソン競技沿道の観客向けに、クーリングスポットを13か所設置。ウォーターサーバーによる飲料提供や暑さ対策グッズの配布、休憩スペースの設置を行い、約11,500人の観客が利用した。観客の積極的な利用を促すため、休憩所マップを作成し大会公式Webサイトで広報を行った。



マラソンコース沿道
クーリングスポット

©(公財)東京都環境公社

【コラム】大会における暑さ対策②

選手向け

アスリートが競技に集中できる環境を整備



コンディショニングアイスバス

国立競技場

- WAスポンサーと協力し、ポカリスエット・クリスタルガイザー(大塚製薬)・inゼリー(森永製菓)を提供。また、熱中症対策の新しい選択肢として注目を浴びている、身体を芯から効率よく冷やすことができるポカリスエット アイススラリー(大塚製薬)を提供。
- 熱中症予防・コンディショニングとしてアイスバスを設置。長距離競技後の選手に氷・アイスタオルを提供。
- 選手用に医師・看護師を配置した医務室を設置。

練習会場等

- WAスポンサーと協力し、ポカリスエット・クリスタルガイザー(大塚製薬)・inゼリー等(森永製菓)を提供。
- 熱中症予防・コンディショニングとしてアイスバスを設置。
- チームに氷を提供。
- 代々木公園陸上競技場のウォームアップ会場では、各国チームがテント内で快適に過ごせるように、東京都・スタートアップと連携し、放射冷却素材を活用したチームテントを設置。

ロード競技

- 大会最初の3日間に行われるロード種目(35km競歩、マラソン)のスタート時間を当初予定の午前8時から30分繰り上げて、7時30分スタートに変更。
- すべてのコースの道路に、遮熱性舗装(一部工事エリアを除く)が施工済み。
- メディカルテントにアイスバス・スポットクーラーを設置。
- 搬送用のメディカルピックアップカー・メディカルベッドカーを配置。
- 2km毎に給水所を設置し、全ての給水所で氷や水を含んだスポンジを提供。



ポカリスエット アイススラリー



選手用医務室



医療用アイスバス

関係者向け

大会を支える関係者への適切な暑さ対策の実施



暑さ対策デバイス

競技役員・コラボレーター

- WAスポンサーと協力し、ポカリスエット・クリスタルガイザー（大塚製薬）を提供。
- 東京都・スタートアップと連携し、暑熱下での危険を知らせるアラート機能を有する暑さ対策デバイスを貸与。
- スタッフレストルームの設置（国立競技場・練習会場）。
- 医務室の設置（国立競技場・練習会場）。



東京体育館（休憩所）

ボランティア

- WAスポンサーと協力し、ポカリスエット・クリスタルガイザー（大塚製薬）を提供。
- 東京都・スタートアップと連携し、暑熱下での危険を知らせるアラート機能を有する暑さ対策デバイスを貸与。
- 暑さ対策グッズ（塩分タブレット（森永製菓））を配布。
- 東京体育館、練習会場等に休憩所を設置。
- 医務室の設置（国立競技場・練習会場）。
- 東京都と連携し、移動時の暑さ軽減のために日傘を貸出。



移動時の日傘使用

©東京都

世界陸上財団職員・スタッフ

- 医務室の設置（国立競技場・練習会場）。

【コラム】大会における暑さ対策④

スタートアップ の活用

放射冷却素材生地のテント

76張り

暑さ対策デバイス

4,190個

空気製水機

12台

東京都が実施しているスタートアップ支援事業(キングサーモンプロジェクト)と連携し、東京2025世界陸上における暑さ対策としてスタートアップの技術を活用した。先進技術による暑さ対策の実現に加え、今後のイベント等における先進的なショーケースを展開。

採択案件

【休憩用テントへの放射冷却素材の活用】

代々木公園陸上競技場や、国立競技場周辺の来場者クーリングスポットのテント幕に、放射冷却素材を使用した生地を活用

製品イメージ／活用の様子



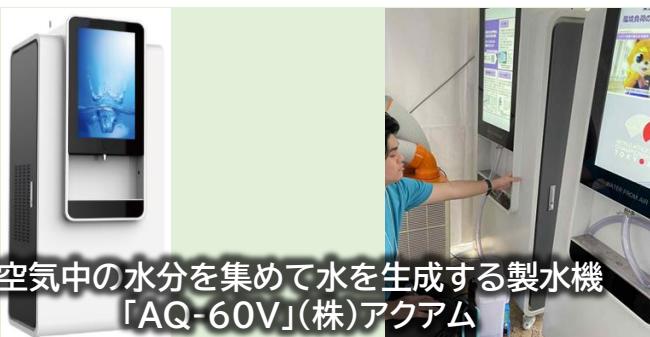
【暑さ対策デバイス】

競技会場及びその周辺にて活動する全ボランティア・コラボレーター等に、暑熱下での危険を知らせるアラート機能を有する暑さ対策デバイスを貸与



【空気中の水分を集めて水を生成する製水機】

国立競技場周辺の来場者クーリングスポットのミストに、空気中の水分を集めて水を生成する製水機を活用



実績、利用者の声 など

- ・一般テントと比べて気温が約2℃低下
- ・「特に外気温が高いタイミングで、一般的なテントと比較して顕著に効果を感じた」「すごく涼しく感じたので次もぜひ利用したい」等の意見が寄せられた

- ・アンケート結果によると、暑熱リスク上昇を知らせるアラートの発生率は約3%であり、必要な場面で適切に機能
- ・アンケートでは「安心して活動できた」「安全性が高まった」等の意見が寄せられた

- ・開催期間中にトータル(56時間×12台)で1,204ℓの水を生成
- ・「野外のイベントなどで便利」「空気から作った水は、ミストシャワーの水として、むしろキレイだと思った」等の意見が寄せられた

【コラム】大会における暑さ対策⑤

医療提供体制

必要な医療提供の対象

全て
の大会関係者



ファーストレスポンダー

国立競技場・練習会場・ウォームアップ会場・チームホテルに、会場医療責任者(医師)を配置し、すべての大会関係者に必要な医療を提供。

会場内医療体制

【国立競技場】

- 選手用及び観客用の医務室を設置、医師や看護師を配置し傷病者を治療。
- トレーナーを選手の動線に配置し、急病人に対応。
- ボランティアのファーストレスポンダーが国立競技場の観客席及び外構部を巡回、急病人に対応(AEDと応急救護セットを持ち、30チームが二人一組で巡回)。
- 選手の熱中症予防及びコンディショニング用としてアイスバスを設置。
- 会場医務室での対応を超えた場合の協力を目的に大会指定病院を3か所確保し、緊密かつ円滑な急患対応ができる体制を構築(セッション中は救急車が待機)。



救急車



選手用医務室

【練習会場・ウォームアップ会場】

- 選手用の医務室を設置、医師・看護師を配置し傷病者を治療。
- トレーナーを配置し、選手にフィジオサービス(ストレッチ、アイシング等)を提供。
- 代々木公園陸上競技場では追加で医療用アイスバスを医務室内に設置。



フィジオエリア

① 株式会社アシックス…P29

② ソニー株式会社…P30

③ 大塚製薬株式会社…P31

④ 近畿日本ツーリスト株式会社…P32

⑤ 株式会社TBSテレビ…P33

⑥ ぴあ株式会社…P34

⑦ 東京ガス株式会社…P35

⑧ 株式会社メディカル・コンシェルジュ…P36

⑨ 株式会社近鉄エクスプレス販売…P37

⑩ 株式会社朝日新聞社…P38

⑪ 株式会社レボインター・ナショナル…P39

⑫ 株式会社LIVE BOARD…P40

株式会社アシックス

Move with athletes

- 2025年9月14日(日)、東京・国立競技場にてアスリートとカラダ動かす体験型イベントを開催。

『世界陸上という特別な舞台で、アシックスならではの特別な体験を提供したい』という想いから企画。アスリートがしのぎを削る舞台で、日本だけではなく海外からご参加の方、障害のある方、アスリート、老若男女問わず、約300名でタスキをつなぐイベントを実施。大会仕様に彩られた国立競技場で、参加者の皆さんはカラダを動かし晴れやかな表情でイベントに臨まれていました。



ASICS MOVE STREET

- 2025年9月14日(日)～9月16日(火)の3日間、東京・丸の内仲通りにて「Feel like an Athlete (フィールライクアンアスリート)」をコンセプトにした体験型イベントを開催。「静」、「動」、「解」の3つのエリアで構成され、世界の舞台で活躍するアスリートのスタート前の緊張感や走り出す瞬間の感情、ゴール後の解放された心の動きを体感いただきたい、という想いで企画。丸の内エリアで働く方やマラソン観戦にいらしたご家族、大会関係者の方など多くのお客様にご来場いただき、カラダを動かすことでココロが前向きに動く瞬間を体験いただいたり、継続的な運動のきっかけづくりをサポートいたしました。



陸上競技日本代表チームオフィシャルウェア

- 「COLOR & GRAPHIC(カラー&グラフィック)」「LIGHT WEIGHT(ライトウェイト)」「BREATHABILITY(ブリーザビリティ)」の3つのテーマを設け、選手が優れたパフォーマンスを発揮できるよう機能性を高めながら、選手の心を奮い立たせるような躍動感あるデザインを採用。シングレットはペットボトル由来のリサイクルポリエステルを100%使用した軽量素材を採用し、製品重量約46グラム(Lサイズ(メンズ))を実現。前回の世界陸上競技選手権大会着用モデルと比べて約10%軽量化。また、アシックススポーツ工学研究所の動作シミュレーションに基づいた深い袖ぐり設計により、肩甲骨や肩まわりの不快感を軽減。



ソニー株式会社

SONY

こどもたちの競技観戦＆スポーツフォトグラファー体験

- ソニー元CEOの平井一夫氏が代表理事を務めるこども支援団体である「一般社団法人プロジェクト希望」と連携し、こどもたちとその保護者を会場に招待。この活動では、競技観戦やソニーのブース見学、競技トラックを使用したイベントの参加に加え、プロフォトグラファーの講師によるαシリーズのカメラを使った撮影体験を実施。





大塚製薬株式会社



選手/観客/スタッフへの熱中症対策

- ・ポカリスエットやポカリスエット アイススラリーに関する情報提供や製品提供により、世界中から集う選手たちのパフォーマンスや安全な大会運営をサポート。熱中症対策にも貢献。
- ・観客向けには、国立競技場隣接の都立明治公園内デッキ上エリアにて、コミュニケーションブース「BLUE POTENTIAL PARK」を設置。一部エリア「BLUE MIST AREA」では6本のミストが噴射され、涼しさを体感できるクーリングスポットを用意。



会場内の
製品提供

BLUE
POTENTIAL
PARK

BLUE MIST
AREA

ボトルtoボトル 水平リサイクル

- ・国立競技場や練習会場で使用されたペットボトルを回収し、新たなペットボトルに再生する「ボトルtoボトル」を世界陸上で初めて実施。
- ・ボトルtoボトル水平リサイクルとは、使用済みペットボトルを新たなペットボトルに再生し、使用する循環型のリサイクルシステム。ペットボトルを資源として繰り返し循環することが可能となり、化石由来原料の使用量やCO₂排出量の削減に繋がり、地球環境の保全に貢献。大会期間中では、ペットボトル約45万本の水平リサイクルを実現。



分別回収ボックス



分別のための表示

ポカリスエット リターナブル瓶 / ポカリスエット スクイズボトル 1L / 選手用オリジナルボトルの提供

- ・国立競技場内のラウンジにおいて、ポカリスエット リターナブル瓶を提供。本大会で使用された容器も回収し、瓶の洗浄、最充填を行い新たな製品に生まれ変わる。
- ・ボランティア向けにポカリスエット スクイズボトル1Lを、選手向けには選手用オリジナルボトルを提供するなど、マイボトルの活用を促進した。



ポカリスエット
リターナブル瓶



ポカリスエット
スクイズボトル 1L



選手用
オリジナルボトル

近畿日本ツーリスト株式会社

車いす席公式観戦プランの発売・催行

- 旅を通じた共生社会の実現に向けた取組みとして、公共交通機関の利用が困難な重度障害をお持ちの車いすユーザーと同行者(介助者)に安心して観戦いただける「車いす席観戦プラン」を発売し催行。
- 本プランを通じて、車いすユーザーの方々に国立競技場で選手へ熱い声援を届けていただいた。

【車いす席公式観戦プランの詳細】

- 車いす席+介助者席観戦 & 国立競技場周辺駐車場利用
- 観戦日 2025年9月20日
- EVENING/カテゴリーA観戦チケット付き
- 観戦中、医療機器利用者向けに電源を確保した専用席の用意

「未来の部活動を考えよう」をテーマにステージイベントを実施

- スポンサーステージでは、当社が提供する「オンライン部活動サポートサービス」について、オリンピアンの高平慎士氏と東京学芸大学講師の松山直輝氏とトークショーを実施。
- 少子化や教員の負担軽減、地域の人材不足等の課題解消を図るため、ICT(情報通信技術)を活用し、誰もが質の高い学びと活動機会を得られる社会の実現に向けて積極的な取組みを進めている。

コマーシャルディスプレイでの展示

- 当社は2025年9月に創立70周年を迎えた。過去日本で開催された世界陸上大会との関わりを記した年表と共に、当社スポーツ事業における取組みについて紹介した展示を行った。
- スポーツを通して健全な社会を実現するため、これまでもこれからも、スポーツを「する人」「見る人」「さえる人」「つどう人」をサポートしていく。

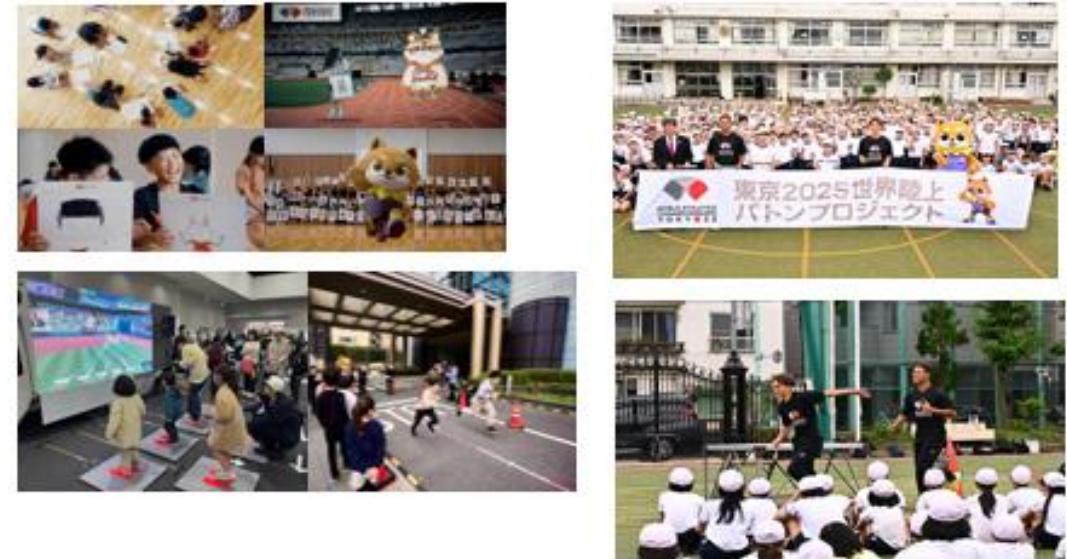


株式会社TBSテレビ

TBS

こども体験事業

- ・こども達との大会マスコットデザインワークショップ開催
- ・「バトンプロジェクト」
財団と連携し、東京都内の全小学校(公立、私立、特別支援学校等)にリレーバトンを寄贈、贈呈イベント等でアスリートによる陸上教室を実施
- ・「TBSあそび！学び！フェスタ」
かけっこ教室、走り体験型ゲーム「BATA BATA PAINT」など



技術革新・環境事業

- ・マラソン中継での水素移動中継車、EVバイク活用
- ・新通信基盤(消費電力従来の1/100)、電子カンペ活用(紙資源従来の8割減)
- ・世界陸上アプリでの歩数計、スタンプラリー実装(健康促進ツール)



ぴあ株式会社

学生に観戦の機会を届ける「バトンをつなげ」プロジェクト ～未来を担う子どもたちに、一生に一度の時間を～

【実施期間:2025年8月8日(金)～8月31日(日)】

- ・本プロジェクトは、「世界の舞台を目に見る体験を、次の世代に届けたい」という想いから生まれた、観戦支援型の取組。
- ・個人でも企業でも参加できる仕組みで、1枚2,500円の「バトンチケット」をご購入いただくと、その収益が学生アスリートたちへの「東京2025世界陸上」観戦招待の原資となる取組で、世界陸上初日に学生アスリートに観戦機会を提供。
- ・ぴあではこの取組の趣旨に基づき、自ら「バトンチケット」を購入。「一人でも多くの若者に、目の前で世界記録が生まれる瞬間を体感してほしい」という願いを込め、プロジェクトの第一歩を踏み出した。
- ・陸上・スポーツに関わる人達の「想い」「ホスピタリティ」を形にしたものが「バトンチケット」であり、本プロジェクトでは、バトンチケット購入者がホスト、学生の陸上競技者がゲストとなって「東京2025世界陸上」という体験を共有。



公式チケットサイトの完全電子チケット化

- ・環境保全や業務効率改善、コスト削減の観点より、弊社が運営した公式チケットサイトにおけるチケット発行に関して、紙チケットを一切発行しない、「完全電子チケット化」を実現。
- ・顧客体験の向上だけではなく、環境にも配慮したチケット販売業務を心がけ、チケッティングサービスおよび大会運営を推進。

東京ガス株式会社

ボランタリーカーボンクレジットの提供

- 地球規模での温室効果ガスの削減に加え、SDGsに寄与する国際的なプロジェクトを支援することにより創出された信頼性の高いボランタリーカーボンクレジットを提供(提供クレジット量468t-CO₂)。

日本で開催される国際スポーツ大会においてボランタリーカーボンクレジットを活用してカーボンオフセットを実施するのは初めての取組。

*ボランタリーカーボンクレジット:2025年6月5日プレスリリース「東京2025世界陸上競技選手権大会におけるカーボンクレジットを活用したCO₂排出量削減貢献の取組について」発出

千住水素ステーションからのグリーン水素充填

- 大会運営に活用する燃料電池自動車(CR-V e:FCEV、車両提供:Honda)には東京ガスの千住水素ステーションで製造されるグリーン水素を一部充填。千住水素ステーションでは、非化石証書が付与された実質再生可能エネルギー100%の電力を使用しており、2023年7月には水電解装置を導入し、グリーン水素の製造も開始している。



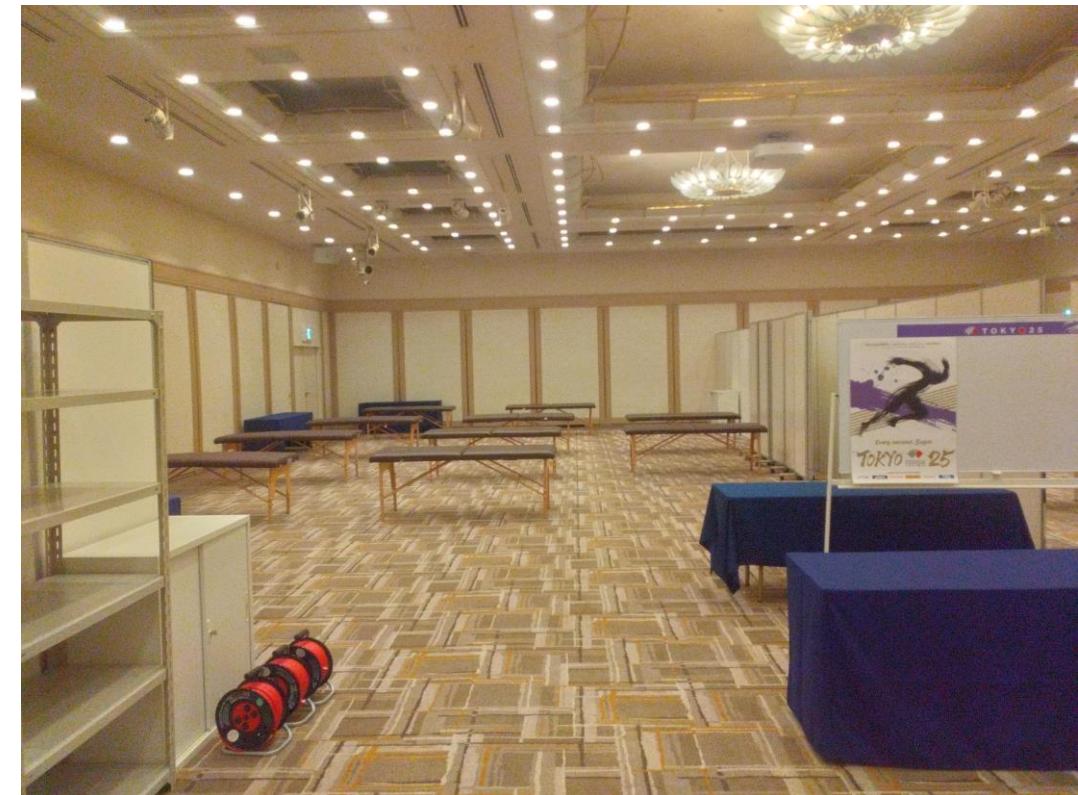
株式会社メディカル・コンシェルジュ

医療用・コンディショニング用消耗品調達・購入

- ・本大会においては、大会期間中における救護・医療対応を支えるため、医療用・コンディショニング用消耗品を調達・提供した。
- ・計画的かつ適切な供給を行うことで、過不足のない安定した医療体制の運営に貢献した。

医療備品等の賃貸借

- ・大会期間中のみ使用する医療用備品等については賃貸借による納入を採用し、使用後の廃棄抑制を通じて、資源の有効活用および環境負荷低減を図った。



株式会社近鉄エクスプレス販売



大会期間中の事業紹介動画(コマーシャルディスプレイ)で環境配慮型輸送サービスを紹介

- ・KWEグループは、SAF(持続可能な航空燃料)プログラムへの参画や非化石証書の購入等を通じて、自社のScope3排出削減を推進するとともに、環境負荷低減に取り組む荷主企業向けに、低炭素輸送オプションを継続的に提供し、サプライチェーン全体でのCO₂排出量削減を支援している。
- ・これらの取組により、国際輸送の脱炭素化に貢献。



株式会社朝日新聞社

朝日新聞社

見どころガイドやPDF号外などの発行

- ・「見どころガイド」(合計55,000部)と「PDF号外」(合計18,000部)の発行において、紙資材の適正調達と都度必要分の印刷・搬入を段階的に実施した。最終的に残部数ゼロで運用を終えた。
- ・これら配布物を通じて、スポーツを通じた報道機関としての役割を広く発信した。



かけっこ教室の開催

- ・2025年11月、スポンサーアクティベーションとして小学校1年～3年生を対象にした「かけっこ教室」を開催し、合計で232名が参加した。当日は、100m日本記録保持者の福島千里氏をお招きして、走る時の手の振り方やスタート時の体重移動などを楽しみながら学ぶ機会を作った。



こども記者の取材サポート

- ・中高生が世界陸上について、選手、関係者、イベントを取材する東京都の「こども記者」に関する取組を支援。
- ・事前にインタビューのやり方やレポートのまとめ方を朝日新聞OB記者が指導、当日の取材サポートも行い、その様子を朝日小学生新聞に掲載。



株式会社レボインターナショナル

大会におけるバイオ燃料の提供

- ・日本全国から引き取った廃食用油を、当社独自の再生技術でバイオ燃料へと精製し、国立競技場に設置する放送事業者用の仮設発電機にC-FUEL(100%バイオディーゼル燃料)を、練習会場等の仮設発電機や大会関係者の輸送バスの一部にCF-5(5%バイオディーゼル燃料)を提供した。
- ・バイオ燃料の活用は世界陸上大会では初の取組であり、大会を通じて、C-FUELを約6万リットル、CF-5を約2万リットル供給することにより、通常の燃料を使用した場合と比較して、約160トンのCO₂削減に貢献した。

大会内の廃食用油の回収

- ・大会時には、国立競技場周辺に出展した3つのブース(①レボインターナショナル、②東京都環境局、③財団)に、回収ボックスを設置。合計で28リットルの家庭の油を回収した。また、東京体育館に出店したフードトラック事業者と連携して、廃食用油の回収を実施。約90リットルの廃食用油を回収した。



株式会社LIVE BOARD

Live Board

TBS「東京2025世界陸上」放映協力

- 自社管理の全国デジタルサイネージにおいて、TBSの協力のもとハイライト映像を期間中放映した他、一部競技のライブ中継を実施。陸上競技への興味喚起を行った。

東京都「熱中症警戒アラート」放映協力

- 都内の複数デジタルサイネージにおいて7-9月期間それぞれで設定した気温以上になった際に放映している熱中症警戒アラートについて、世界陸上開催期間中は引き続き熱中症への警戒意識を高める必要があることから、東京2025世陸財団の大会PR広告やTBS東京世界陸上ハイライト放映に合わせて追加放映を実施した。

国連「1.5°Cの約束」気候キャンペーン放映協力

- 国連と日本のメディアによる国レベルでの共同キャンペーンの一環として、NHKと民放キー局併せて6局が連動して展開する取組に2022年より賛同。地球環境/気候変動への意識を高める狙い。今年度においても、世界陸上で取り組まれた一人ひとりが環境問題を考えることや取り組むことの重要性を繋げるべく、大会終了後から自社管理の全国デジタルサイネージにてコンテンツ動画放映を実施。



III.WAの大会に関するサステナビリティ評価

- ✓ WAが定める大会の持続可能性を評価するABW基準(Athletics for a Better World Standard)において、**世界陸上大会としては初となる最高評価(プラチナ)を獲得**
- ✓ WAの主催イベントにおける、プラチナ認証は3例目(2024年より本格運用)

【WA セバスチャン・コーエン会長コメント】

「東京2025世界陸上は環境への影響を減らし、社会的価値の最大化を重視してきました。その成果として、陸上競技にとどまらず、あらゆるスポーツイベントが参考にできる持続可能性のモデルを確立するとともに、この大会は今後の国際スポーツイベントにおける新たな高い基準を示しました。」

ABW基準とは

WAの持続可能性戦略に定められた、重点6分野(リーダーシップ・持続可能な生産と消費、気候変動と炭素、地球環境と大気環境、グローバルな平等、多様性・アクセシビリティ、ウェルビーイング)に沿って採点し、得点状況によりランク付けされる

プラチナ:108ポイント(90%)

シルバー:84ポイント(70%)

認定イベント:40ポイント

ゴールド:96ポイント(80%)

ブロンズ:72ポイント(60%)



ANNEX

- 統計データ(カーボンフットプリント、廃棄物のリサイクル率、エネルギー・水の消費量など)
- 各取組一覧

カーボンフットプリント

【排出量の内訳】

Scope1	ガス・発電機の燃料使用	468t-CO ₂ カーボンクレジット充当
Scope2	会場電力利用	18t-CO ₂ グリーン電力証書充当
Scope3	観客移動	28,003t-CO ₂
	アスリート移動	12,497t-CO ₂
	スタッフ移動	11,937t-CO ₂
	仮設構築物	5,563t-CO ₂
	食事提供	1,357t-CO ₂
	公式ライセンス商品	1,224t-CO ₂
	スタッフユニフォーム等	1,051t-CO ₂
	備品輸送	797t-CO ₂
	その他	366t-CO ₂
	小計	62,795t-CO ₂
合計		63,281t-CO ₂

【CO₂排出削減に資する主な取組】

Scope1

◆ バイオ燃料の活用 (CO₂削減 ▲160.5t-CO₂)

- 国内スポンサーのレボインター・ナショナルと連携し、仮設発電機や輸送車両の一部にバイオ燃料を使用
※CO₂削減量は通常燃料使用時(203.9t-CO₂)とバイオ燃料使用時(43.4t-CO₂)の差分から算出

◆ カーボンクレジットの活用 (468t-CO₂)

- 国内スポンサーの東京ガスより、Scope1排出量に相当するクレジットを充当

Scope2

◆ グリーン電力証書(東京都提供)の充当 (18t-CO₂)

Scope3

◆ 大会関係者・観客移動に伴うCO₂排出削減

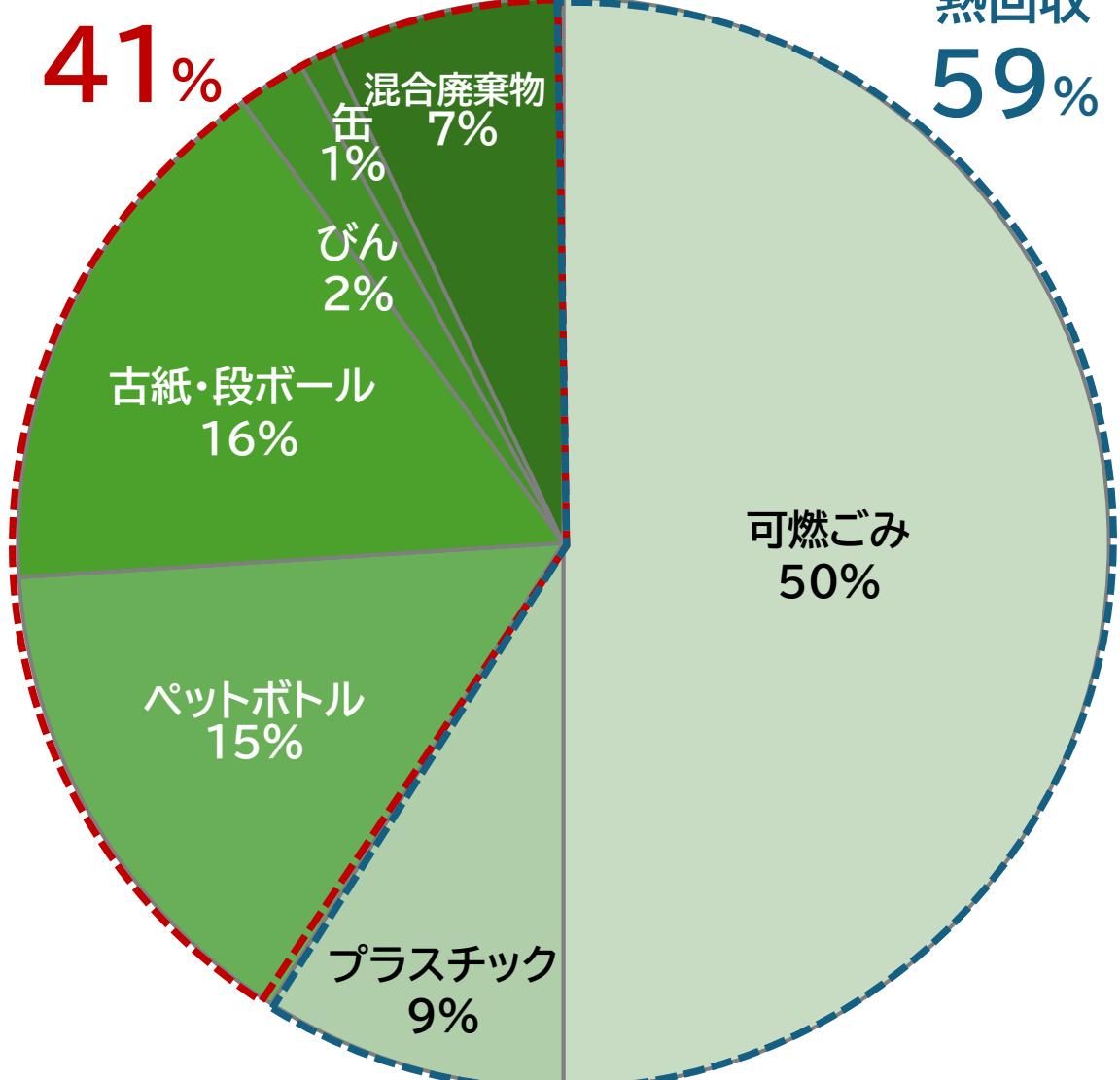
- 観客やメディア関係者への公共交通機関の利用促進
- 大会関係者の輸送車両への低環境負荷車両の導入・グリーン水素の活用
※併せて、持続可能な航空燃料(SAF)活用促進に向けたキャンペーンも実施

◆ ボトルtoボトルの実施 (CO₂削減 ▲18.5t-CO₂)

- WAスポンサーの大塚製薬と連携し、ペットボトル45万本の水平リサイクルを実施。
(ペットボトル製造時に使用する石油由来原料11.23tから削減効果を算出)
※CO₂削減量は新たな石油由来原料から製造した場合(43.4t-CO₂)と水平リサイクル実施(24.9t-CO₂)の差分から算出(WAによる算定)

廃棄物のリサイクル率

再生利用(リサイクル)



ごみ種別	処理方法	重量 (kg)	割合 (%)	割合 (%)
可燃ごみ	再生利用 (リサイクル)	37,173	50%	41%
プラスチック		6,631	9%	
食品廃棄物		181	0%	
ペットボトル		11,230	15%	
古紙・段ボール		11,974	16%	
びん		1,472	2%	
缶		1,001	1%	
混合廃棄物(金属など)		4,920	7%	
合計		74,582	100%	100%

エネルギー・水の消費量

【対象期間】各会場のバンプイン～バンプアウト

【対象エリア】競技会場・ウォームアップ会場・練習会場等

国立競技場、代々木公園陸上競技場、東京大学陸上競技場、大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場、東京体育館

【備考】エネルギー及び水資源については、各会場の既設事業者による供給を継続利用

※バイオ燃料は各会場の仮設発電機や輸送車両の一部に燃料として使用(国内スポンサーのレボインター・ナショナルから調達)

エネルギー種別		種類	消費量	
燃料・ガス 消費量	B5軽油(バイオディーゼル燃料5%混合軽油)	16,779ℓ		都市ガス及びB5軽油分の CO ₂ 発生量について、国内 スポンサーである東京ガス よりカーボンクレジット 468トンを充当
	100%バイオディーゼル燃料	60,397ℓ		
	都市ガス	183,652Nm ³		
電力消費量	買電	36,103kWh		買電分の36,103kWhに について、東京都より「グリー ン電力証書」を充当
	再生可能エネルギー由来電力	1,598,540kWh		
	小計	1,634,643kWh		
水消費量	小計	20,794m ³		

ANNEX 統計データ



食品ロス対策

【喫食率(会場飲食)】

(小数点以下第2位四捨五入)

提供対象者／提供形態	提供量(kg)	喫食量(kg) (提供量-残食量)	喫食率(%) (喫食量/提供量)×100	備考
VVIP・VIP／ブッフェ形式	6,508.2kg	5,656.3kg	86.9%	
選手・審判員・医療関係者・競技運営コラボレーター等／弁当提供	6,605.2kg (16,513個)	5,721.2kg (14,303個)	86.6%	
メディア関係者等／パン提供	275.0kg (10,186個)	275.0kg (10,186個)	100.0%	
選手・メディア関係者等／バナナ提供	4,020.0kg (21,440本)	4,020.0kg (21,440本)	100.0% (※)	(※)都内フードバンク、こども食堂等での活用分を含む
合計	17,408.4kg	15,672.5kg	90.0%	

再資源化等の取組

提供対象者／提供形態	取組内容
VVIP・VIP／ブッフェ形式	廃棄食材を堆肥化し、再利用(約128kg)・バイオガス化(約38kg)・熱回収(約686kg)
選手・審判員・医療関係者・競技運営コラボレーター等／弁当提供	弁当ガラ及び未喫食分を熱回収
選手・メディア関係者等/コーヒー提供	コーヒー粕を肥料化し、再利用(約15kg)
選手・メディア関係者等/バナナ提供	余剰分のバナナ3,931本を都内フードバンク、こども食堂等43団体にて活用
メディア関係者・放送事業者/フードトラック販売	フードトラック事業者(東京体育館にて出店)と国内スポンサーであるレボインター・ナショナルとの連携により、廃食用油約90リットルを回収、再利用

大会における子どもの参画

66,142名

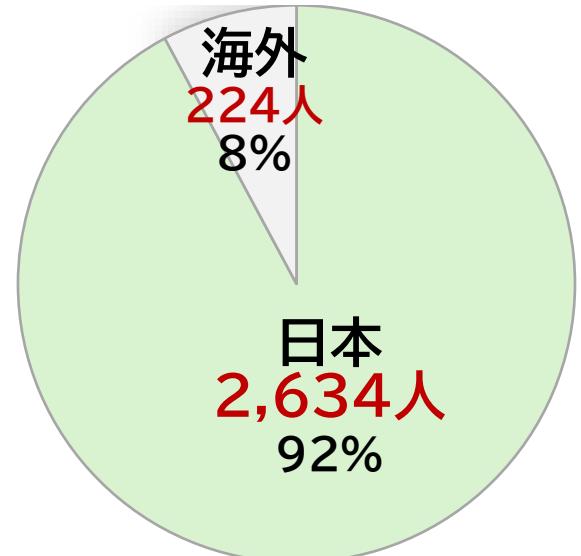
事業	人数	取組概要
子どもワークショップ	18	子どもたちの意見を聴くためのワークショップを開催
大会ロゴ・メダルデザイン	453	メダルやロゴのデザインに子どもたちの意見を反映
公式マスコット「りくわん」制作	71	「りくわん」制作にあたって小学生からアイデアを募集
「りくわん」銅像設置の除幕式	59	都内の小学6年生を招待
子ども記者	12	都内の中高生が世界陸上について選手、関係者、イベントを取材
バックステージナビゲーター	57	メダルセレモニーで会場周辺区の中学生がメダリストをエスコート
国立競技場での競技体験・バックヤード見学等(東京都)	10,076	大会前や大会期間中に国立競技場においてトラックでの短距離走体験等を実施。大会前には競技場内のバックヤード見学も実施。
Kids Press Conference	16	大会期間中の国立競技場において、都内の小学6年生がアスリートにインタビュー
子どもの大会観戦(東京都)	49,421	都内及び被災地の子どもたち(引率者含む)を競技観戦に招待

事業	人数	取組概要
バトンプロジェクト キックオフイベント	240	アスリートアンバサダーのサニブラウン・アブデルハキーム選手、橋岡優輝選手が子どもたちにバトンを贈呈し、スペシャル授業を実施
バトンプロジェクト 大会開幕直前特別イベント	40	高平慎士氏、スペシャルアンバサダーである織田裕二氏が子どもたちにスペシャル授業を実施
SPEED STAR 30m Dash Challenge (日本陸連)	354	子どもから大人まで誰もがスポーツジャンルの垣根を越えて楽しめる、30mダッシュのタイムを競うイベントを世界で初めて開催
東京2025世界陸上 100 Days To Go !	538	キッズアスリートチャレンジプログラムやアスリート交流プログラムを実施
Kids' Athletics アンバサダー交流イベント	127	Kids' Athletics アンバサダーである、Letsile Tebogo選手との交流イベントを都内小学校で実施
前夜祭イベント 「RUNS:INTO KK」 (東京都)	304	イベントの中でファミリーやジュニア向けの「1mileレース(ファミリー)」と「1mileレース(キッズ&ジュニア)」に子どもたちが参加
エキシビションレース	18	大会期間中の国立競技場にて、日本全国の中学生アスリートが100mのレースに登場
キッズデカスロン チャレンジ (日本陸連)	4,338	男子十種競技(デカスロン)にちなんだ、陸上競技の走・跳・投に楽しくチャレンジできる、子ども向けプログラムを通年実施

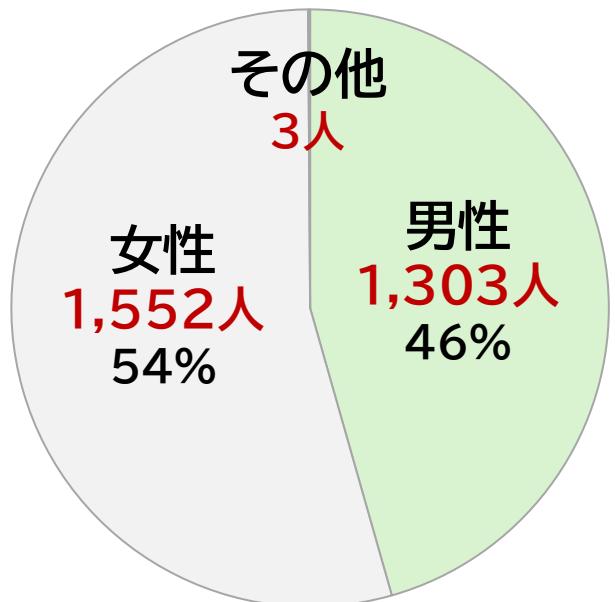
ボランティアの性別・年齢構成

参加人数: 2,858人

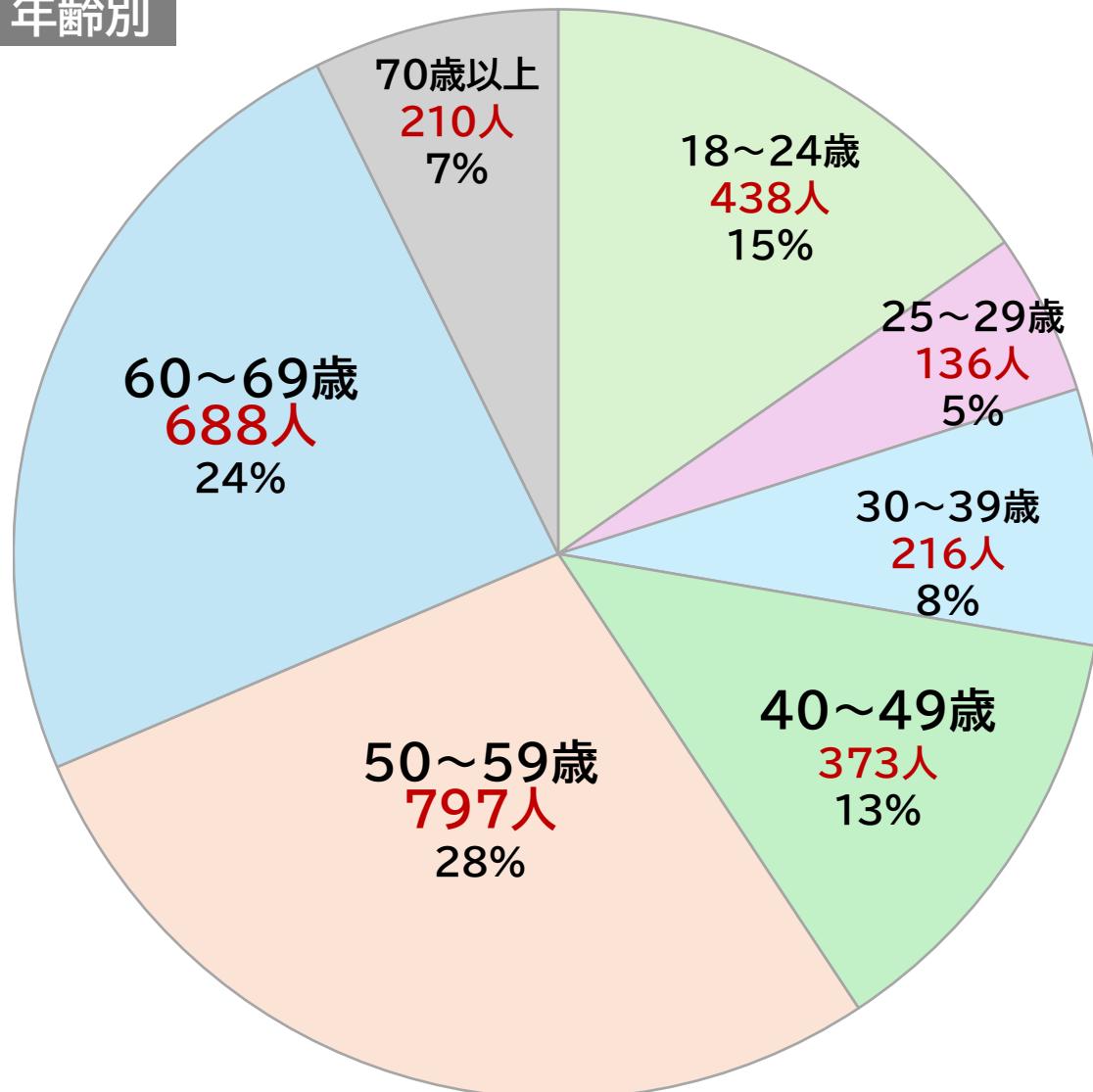
国籍別



性別



年齢別



■ Airソーラー(次世代型太陽電池)の活用

- ・ 東京都の実装検証事業として、国立競技場の周辺にAirソーラーを搭載した庭園灯を設置し、照明に活用
- ・ コマーシャルディスプレイ内の財団ブースにおいてAirソーラーの現物を展示

■ バイオ燃料の活用

- ・ レボインターナショナルと連携し、国立競技場に設置した放送事業者用の仮設発電機に100%バイオ燃料(C-FUEL)を使用するとともに、練習会場等の仮設発電機に5%バイオ燃料(CF-5)を使用
- ・ 大会関係者の輸送車両の一部にバイオ燃料を使用

■ 廃食用油から製造されたSAFの活用

- ・ 東京都と連携し、大会を契機とした「家庭の油回収キャンペーン」を展開するとともに、大会期間中、コマーシャルディスプレイ内のレボインターナショナルや財団のブース、都立明治公園の東京都環境局ブースにおいて廃食用油回収を実施
- ・ 東京都が製作した、油を容器に移すのに便利な「江戸前じょうご」を配布
- ・ 東京体育館に出店したフードトラック事業者とレボインターナショナルが連携し、廃食用油の回収を実施

■ カーボンクレジット・グリーン電力証書の活用

- ・ 東京ガスと連携し、オフセットを行うため、カーボンクレジットを充当
- ・ 大会で購入する電力からのCO₂排出については、東京都のグリーン電力証書を充当

■ 低環境負荷車両の活用・効率的な輸送

- ・ Hondaと連携し、同社より提供された燃料電池自動車や電気自動車等の低環境負荷車両を、大会関係者の輸送やマラソン競技運営時の審判車両や計時車両等に使用するとともに、東京ガスと連携し、グリーン水素を活用
- ・ 選手の移動は、シャトルバスによる一括輸送を行うことで効率化を図るとともに、一部には燃料電池バスを導入
- ・ メディア関係者へ交通系ICカードを配付し、公共交通機関の利用を基本とすることで、大型バスの台数を削減

ANNEX 各取組一覧

■ 公共交通機関の利用

- ・スタッフ・ボランティアは公共交通機関を利用するとともに、観客に対してHPで公共交通機関の利用を周知
- ・メディア関係者には、公共交通機関の利用を基本とし、交通系ICカードを配付

■ 暑さ対策

【観客向け】

- ・国立競技場周辺やマラソン・競歩コース沿道への冷風設備を備えたクーリングスポットの設置
- ・暑さ対策ガイドマップや暑さ対策グッズ(塩分タブレット(森永製菓)、保冷剤)の配布、東京2020大会で活用したかぶる傘の貸出、ウォーターサーバーによる飲料提供、ミストクルーによる涼の提供を実施
- ・国立競技場内では、場内既設のミスト冷却装置や気流創出ファンの活用、売店での飲料専用レジ・レーンの設置
- ・メダルセレモニー会場において観覧者に対する飲料(ポカリスエット・クリスタルガイザー(大塚製薬))の配布
- ・東京都・スタートアップと連携し、国立競技場周辺の来場者クーリングスポットのテント幕に放射冷却素材を活用、ミストに空気中の水分を集めて水を生成する製水機を活用
- ・ボランティアのファーストレスポンダーが国立競技場の観客席及び外構部を巡回、急病人に対応

【選手向け】

- ・国立競技場において、WBGT(暑さ指数)等の測定機器を設置し、大会関係者へオンラインで情報提供するとともに、選手用医務室の設置やアイスバスの配置を実施。ポカリスエット アイススラリー(大塚製薬)を提供
- ・代々木公園陸上競技場のウォームアップ会場では、東京都・スタートアップと連携し、放射冷却素材を活用したチームテントを設置
- ・ロード競技時は2Km毎に給水所を設置し、全ての給水所で氷や水を含んだスポンジを提供
- ・ポカリスエット・クリスタルガイザー(大塚製薬)、inゼリー(森永製菓)等を常時全会場で提供

【大会関係者向け】

- ・競技役員・コラボレーター、ボランティアに対して、東京都・スタートアップと連携し、暑熱下での危険を知らせるアラート機能を有する暑さ対策デバイスを貸与
- ・東京体育館においてボランティアの移動時に日傘を貸出。
- ・ポカリスエット・クリスタルガイザー(大塚製薬)、inゼリー(森永製菓)等を提供

■ ボトルtoボトルの実施

- ・ 大塚製薬と連携し、国立競技場や練習会場で使用されたペットボトルを回収して新たなペットボトルに再生する水平リサイクルを実施

■ 持続可能な調達、廃棄物の削減

- ・ 持続可能な調達計画を作成し、備品等の調達や物品等の購入では環境に配慮するなど、持続可能な調達を実施
- ・ 競技備品や医療備品等は、適正な財産処分手続きを経て、大会後に都立施設等に譲渡して活用
- ・ ホームページ等において、観客へマイボトルの持参を周知
- ・ 大塚製薬と連携し、国立競技場内のラウンジにおいて繰り返し使えるポカリスエット リターナブル瓶を提供
- ・ マラソン競技沿道休憩所において、リユースカップにより飲料提供を実施
- ・ 国立競技場や練習会場での飲食提供では、包装材に再生材を活用するとともに、紙皿・紙容器・紙コップには、FSC認証素材を使用。売店では全売店共同仕入れによる統一飲料カップ(ポリ乳酸ソフトカップ:植物度100%・生分解性度100%:再生プラスティック使用)の採用により資源と廃棄物の削減
- ・ 大会で用いた装飾等を活用した、アップサイクルを実施
- ・ 日本陸連と連携し、選手からウエア・シューズの寄付を募る活動を実施

■ 食品ロスの削減

- ・ 来場者数や喫食率等に基づき提供食数を精査し、可能な限り直前まで発注数を調整するとともに、冷凍食材の調達を通じた調理段階における食材の有効活用を実施
- ・ 国立競技場内のラウンジにおいて発生した廃棄食材の一部を堆肥化、その他はバイオガス化等の再資源化を実施
- ・ 選手やメディア関係者への提供後、余剰となったバナナについて、都内フードバンク及びこども食堂等にて活用
- ・ メディア関係者・審判等に提供したコーヒーの抽出過程で発生したコーヒー粕を堆肥化する取組を実施
- ・ 状況に応じた柔軟な飲食の機会を提供するため、一部の大会関係者に対し食費相当分のプリペイドカードを配布

ANNEX 各取組一覧

■ 地域の環境改善

- 森永製菓と連携し、国立競技場周辺でジョギングしながらごみを拾うプロギングを実施
- 財団スタッフが国立競技場周辺のごみ拾いを実施
- WAと連携し、国立競技場に測定機器を設置して大気環境をモニタリングし、選手・大会関係者に情報提供
- 低環境負荷車両及びバイオ燃料の使用
- 東京の緑への関心を高めるため、都立明治公園において、グリーンビズマップやクエストなど東京グリーンビズの取組をPR

■ 施設改善と大会後の活用

- 大会を機に、国立競技場、練習会場のトラック等の施設を改善し、大会後も有効活用

■ 多様な人々の大会への参画等

- こどもワークショップを開催し、大会運営に対する子どもの意見を聴き、それらを反映した取組を実現
- 大会ロゴやメダルデザイン、公式マスコット「りくわん」の制作にあたり、こどもたちの意見を聴取するとともに、お披露目イベント等にこどもたちが参加
- こども記者プログラムにおいて、都内中高生が記者として世界陸上について選手・関係者・イベントを取材し、情報発信する取組を実施
- 東京都と連携し、こどもたちに大会観戦の機会を提供。都内及び被災地(岩手県、宮城県、福島県及び石川県)から招待
- WAの Kids' Athletics アンバサダーが都内小学校を訪問してこどもたちと交流
- WAと連携し、国立競技場の記者会見室にてこどもたちがインタビュートラベルを行なう「Kids Press Conference」を実施
- 大会期間中の国立競技場においてエキシビションレースを実施し、マスターズ・パラアスリート・デファスリート・全国の中学生アスリートが参加
- メダルセレモニー時に都内中学生がバックステージナビゲーターとしてメダリストをエスコート
- ボランティアは年齢、国籍、性別、障害の有無等を問わず、幅広い人材が参加
- LGBTQ+に関する理解促進のためのパネルを作成し、大会時の財団ブースにて展示

ANNEX 各取組一覧

■ 公平な大会運営

- ・ 人権や大会運営に関するスタッフ研修を実施
- ・ アスリートへの性的ハラスメントに該当する可能性のある撮影・録画行為を会場内全域で禁止
- ・ 選手が平等に施設利用できるようチームマニュアルを作成
- ・ WAや国際機関が定める基準により、ドーピング検査を公平に実施

■ ダイバーシティ&インクルージョン

- ・ 職員には多様な人材を採用するとともに、差別の禁止や人権・個性の尊重について行動規範で規定

■ アクセシビリティの向上

- ・ スタッフ・ボランティアに、アクセシビリティトレーニングを実施
- ・ 会場内外でスタッフ・ボランティアが音声を多言語で表示するタブレット端末やディスプレイ等のユニバーサルコミュニケーション(UC)機器を活用

■ 陸上競技への関心、健康・安全、ウェルビーイングの向上

- ・ 日本陸連は「SPEED STAR 30m Dash Challenge」や「キッズデカスロンチャレンジ」の陸上体験イベントを開催
- ・ 東京都は国立競技場に小学生を招き、6~7月に「特別スタジアムツアーア」、大会期間中に「世界陸上リアル教室」を実施
- ・ 東京都は大会を契機としてこどもたちに陸上競技に関心を持つもらうため、スポーツドリルを作成し、Webで公開するとともに、冊子を都内全小学校4~6年生に配布、イベントにおいても活用
- ・ 東京都はKK線(旧東京高速道路)にて多彩なランニング体験を提供する、東京2025前夜祭イベント「RUNS:INTO KK」を開催
- ・ 行幸通りにおいて「東京2025世界陸上 100 Days To Go!」を開催、キッズアスリートチャレンジプログラムやアスリート交流プログラムを実施
- ・ 都内全小学校に東京2025世界陸上オリジナルのリレー用バトンを寄贈するバトンプロジェクトを実施。キックオフイベントや大会開幕直前特別イベントでは、こどもたちが大会アンバサダーによるスペシャル授業を体験
- ・ 選手・スタッフ・ボランティア等に対して、WAと連携し、セーフガーディングに関する情報の提供や研修を実施

ANNEX 各取組一覧

■ 環境配慮の気運醸成

- Airソーラーやバイオ燃料等の先進技術について、国立競技場周辺の活用現場でPR、東京都は気候危機をテーマに国際フォーラムで発信
- SAFの原料となる廃食用油の回収キャンペーンを東京都と連携して実施
- 観客等に対して、ごみの分別回収や公共交通機関利用の協力など、環境配慮行動を大会公式Webサイトで周知
- 東京都やスポンサーと連携し、国立競技場周辺のブース等で持続可能性の取組を発信

■ アスリート等による発信

- アスリートアンバサダーや財団の広報・PR担当理事が持続可能性PR動画に出演し、メッセージを発信